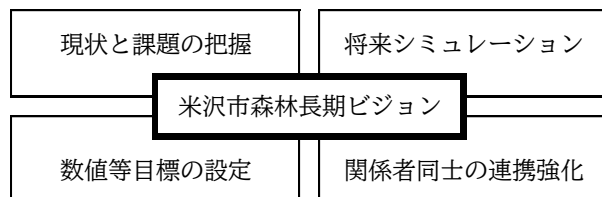


「F.O.R.E.S.T.」では、課題解決のための協議や関係者同士の連携強化を図ることはもちろんですが、市からの事業提案等についても、協議する予定です。現時点において、予定している協議内容については、①森林長期ビジョンの策定、②オール米沢での展示会出展、③森林ゾーニング策定と優先区域設定、④講演会や研修会等の実施です。協議内容の詳細については以下のとおりです。なお、必要に応じて内容は臨機応変に変更します。

①森林長期ビジョンの策定

本市木材産業の発展には、エビデンスに基づいた課題整理と目標設定により、本市が目指すべき木材産業全体の方向性と森林の姿を的確に捉え、その達成に向けた関係者の意識醸成と連携強化、相互理解が必要不可欠と考えています。

そのためには、市だけで施策等を考えるのではなく、関係者同士で意見を交換しながら、市を含む木材産業関係者全員が同じベクトルを向く必要があるとともに、世代が交代しても変わらない「軸」を持つことが重要と考え、本市の100年後の森林づくりを見据えた「(仮)米沢市森林長期ビジョン」の策定を目指しています。
 <(仮)米沢市森林長期ビジョンイメージ図>



①現状と課題の把握

関係者へのヒアリングなどを通し、木材産業の現状とそれぞれが抱える課題を把握します。それを関係者同士で共有し、課題解決に向けた意識の醸成を図ります。

②将来シミュレーション

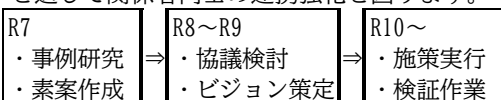
航空レーザ測量の成果などのデータを活用して持続可能な森林づくりに向けたゾーニングの設定及びヒアリング等に基づく木材産業のサプライチェーンマップの作成等から生産、流通の効率化を図ります。

③数値等目標の設定

行政による目標の押し付けにならないよう関係者全体で数値目標を設定するとともに、各種施策など目標達成に向けた森林環境譲与税の効率的な使途の検討を行います。

④関係者同士の連携強化

本協議会や長期ビジョン策定時のワークショップ等を通して関係者同士の連携強化を図ります。



②オール米沢での展示会出展

森林整備の促進には、森林所有者や素材生産者だけでなく、木を使う側にも目を向ける必要があると考えています。特に都市部においては環境負荷軽減やSDGs等の観点から木造、木質化への転換が顕著であり、一大消費地への販路の拡大は、木材の需要量や供給量が増加することで、森林整備に繋がるものと考えています。地域内での循環には限度があることから、市外(県外)に対しても本市木材等の周知を行うことが重要です。

そこで、東京都において開催されている以下の展示会を視察し、個別の出展だけではなく、米沢市としてスペースを借り上げて展示することで、効率的な周知が図られるのではないかと考えました。

①WOOD COLLECTION (通称モクコレ)

毎年、東京ビッグサイトを会場として2日間にわたって開催される国内最大規模の木材、木製品の展示商談会で、全国から約250社が参加。都道府県ごとにエリア分けされた空間に参加企業が出展し、一般来場者からバイヤーまで幅広く訪れています。

基本的にパネルで仕切って出展していますが、都道府県によっては仕切らずに一体感を出しながら展示を行っていました。市として数コマ分を借上げ、一体となって出展することで効率的に周知できると考えています。



②国産木材の魅力発信拠点 MOCTION (モクション)

東京都西新宿にある都が運営する常設展示場であり、全国の国産木材の利用促進のため、顧客ニーズに合致した木材や木製品のマッチングと情報発信を行っています。常設展示スペースの外、期間限定で企画展示も可能であることから、そこへの出展を検討しています。企画展示終了後は常設展示への移行も可能であり、長く周知できることも魅力と考えます。



③森林ゾーニング策定と優先区域設定

森林の公益的機能の発揮のためには森林整備を行うことが重要です。しかし、路網もなく傾斜のある奥山等の造林地などは、近年は適切な管理が行われず、放置されている森林も多く見受けられます。

そのため、素材生産を行う森林や天然の更新力に期待する森林など、航空レーザ測量の成果を基に、新たな森林ゾーニングを策定し、持続可能な森づくりを目指します。併せて、地形や材積などによる「森林評価マトリクス表」を作成し、表と現況を照合させ、優先的に整備を行う森林を選定することで、効率的な森林整備を目指し、森林の公益的機能の発揮を目指します。

<森林評価マトリクス表>

生産活動の可能性			森林の経済性		
傾斜度	SHC	路網	500m3/ha以上	500m3/ha未満	スギ以外
30° 未満	0.5未満	400m以内	A	B	G
		範囲外	C	D	
	0.5以上		E		H
30° 以上		F			

例えば、「A」を優先的に整備する、将来的に「C」が良いとなれば路網を整備して「A」に近づける、「F」は広葉樹林化(針広混交林化)を目指すなどが挙げられます。

令和7年度の会議では、森林ゾーニングの事務局案の審議や、森林評価マトリクス表の是非等を協議することで、本市が目指すべき将来の林型について、意見交換等を行いたいと考えています。それらを基に森林長期ビジョンの素案の作成に着手していきます。

④講演会や研修会等の実施

必要に応じて、外部の講師を招いた講演会や研修会等を開催し、課題解決の糸口を探るほか、トレンドの把握等を行います。これらは、全体会議に限らず、分科会ごとにテーマを設定し、開催することも可能とします。

